

EHSマネジメント

東京エレクトロングループでは、EHS(環境・健康・安全)活動を
経営の重要課題と捉え、推進しています。

EHSの考え方

当社グループは、EHS活動を通じて人々の健康と安全、地球環境に配慮することが、経営上、最も重要なことの一つであると認識しています。私たちの事業活動に関係するすべての人々から信頼される企業になることを目指し、同時に、これらの活動が長期的には当社グループの利益にもつながる、という考えに基づき、事業を行っています。さらに、社会の一員としての自覚を持ち、豊かな社会づくりに貢献できるようなEHS活動を展開していきます。

EHS推進体制

当社グループは、EHS活動をグループ全体で推進するため、EHS推進体制を構築しています。

製品については「プロダクトEHS」、製品の納品/設置作業などについては「顧客先作業EHS」、工場やオフィスは「ファクトリー&オフィスEHS」と、これら三つを中心に活動を展開しています。1997年より製造子会社を中心にISO14001に基づく環境マネジメントシステムを構築・実行し、認証を取得しています。

東京エレクトロングループのEHS推進体制



ISO14001 認証取得事業所

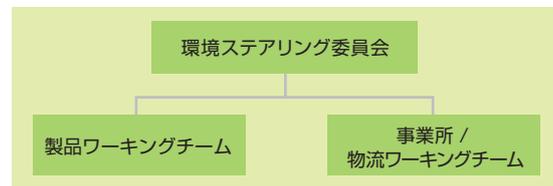
会社名	事業所名	認証取得年月日	認証番号
東京エレクトロンPS/ 東京エレクトロンAT	相模事業所	1997年 12月10日	1110-1997-AE-KOB-RvA Rev.1
東京エレクトロン東北	東北事業所	1998年 2月19日	1118-1998-AE-KOB-RvA
東京エレクトロン九州	熊本/合志/ 大津/佐賀事業所	1998年 3月26日	1120-1998-AE-KOB-RvA
東京エレクトロンAT	山梨事業所 (藤井/穂坂地区)	1998年 5月15日	1124-1998-AE-KOB-RvA
	宮城事業所	2005年 3月1日	01245-2005-AE-KOB-RvA
東京エレクトロンデバイス	横浜事業所	2004年 7月14日	EC04J0144

環境ステアリング委員会

当社グループは、昨今の地球温暖化・気候変動問題への対応の必要性を認識し、「環境ステアリング委員会」を2007年10月より発足させ、環境対応活動をより加速させています。この委員会は開発部門の執行役員やマーケティング部門、経営戦略室、広報部門などで構成され、環境面における活動の社内最高機関として位置付けられています。

「環境ステアリング委員会」の下に、当社グループの製品について検討を行う「製品ワーキングチーム」と事業所や物流について検討を行う「事業所/物流ワーキングチーム」を設置し、「Technology for Eco Life」を環境活動のスローガンにコミットメントの達成に向けた活動をグループ全体で行っています。2008年度はコミットメントの達成基準やロードマップの検討を行いました。

環境ステアリング委員会



EHS活動のチェック体制

EHSマネジメントシステムの実効性を高めるために、継続的にシステムや成果のチェック機能を担う監査のレベルアップを図っています。監査は事業所内やグループ内、あるいは第三者による監査など様々な観点から行われています。特に積極的に推進している監査は、2002年度より継続実施している、各事業所のEHS代表者による相互監査「TELインターナル監査」です。2006年度からは、製品含有化学物質のサプライチェーンや、労働安全衛生法の改訂による元方事業者*からの関係請負人への安全上での指示・伝達強化に伴い、新たな監査項目を追加し、取引先、協力企業とのEHS実施状況について確認を徹底しています。追加された内容での監査を継続して実施し、チェックをさらに強化していく方針です。

*元方事業者：一つの場所において行う仕事の一部を協力会社に請け負わせて、自らも仕事の一部を行う最上位の事業者。

EHSリスクマネジメントシステム

製造子会社では、ISO14001やOHSAS18001、労働安全衛生マネジメントシステムに基づき環境や安全のリスクを評価し、リスクの高いものから対策に取り組んでいます。また、法規制に先駆けてリスクの削減に取り組んでいる課題もあります。環境面では地球温暖化防止への対応を最も重要な課題と考えています。

環境法令や排出基準などの法規制を確認し、一部では自主基準を設けるなど、法規制遵守に努めています。2008年度は、環境関連の事故・違反・罰金・苦情、また、これらにかかわる訴訟などはありませんでした。

EHS教育

当社グループでは、「必要な教育を必要な人に」の考えに基づき、当社グループ社員および当社グループ内で作業する協力会社社員に対し、EHSの観点による階層別の教育・訓練を実施しています。

また、新入社員研修においてもEHSに関するプログラムは必須科目としています。

お客様向けEHSセミナーを開催

台湾・新竹サイエンスパーク内の科技生活館において、5回目となるお客様向けのEHSセミナーを開催しました。今回は、環境に重点をおき、当社グループのEHS活動全般や各装置での環境への取り組み、バーチャルリアリティ映像を用いた安全体験学習などを行いました。参加者アンケートでは、「東京エレクトロンの環境への取り組みが良くわかった」「バーチャルリアリティ教育は効果的だと思った」といった意見をいただいています。



台湾EHSセミナー風景

EHS活動目標と2008年度実績

	活動項目	2008年度達成目標	2008年度実績	評価	2009年度以降の計画、目標	関連するページ
EHSマネジメント	EHS相互監査の実施	サプライチェーンを含めた事業所間でのEHS相互監査を実施	1事業所においてサプライチェーンの項目を追加し実施、発見した指摘事項を是正した	○	継続して監査を行っていく	P.12-13
製品における環境への取り組み	装置の省エネルギー化	TEロードマップ*指標の達成およびTechnology for Eco Lifeコミットメントの達成に向けての基準づくりと活動推進	Technology for Eco Lifeコミットメントの達成に向けての基準づくりを進めた 既存装置への反映を進めた 300mm製品：2009年度目標を6製品中2製品で前倒して達成した	○ ○ ○	Technology for Eco Lifeコミットメントの達成に向けての基準の詳細明確化と活動推進	P.16-17
	装置に含まれる規制化学物質対策	TEロードマップ指標の達成(2008年10月出荷開始に向けた準備と対応)	2008年10月より出荷を開始した	○	対応製品を増やしていく 規制の調査および対応を進める	P.18
物流における環境への取り組み	物流における環境負荷低減	Technology for Eco Lifeコミットメントの達成に向けての基準づくりと活動推進	達成基準を明確化し、達成までのシミュレーションを行った 国内の物流量を正確に把握し、モーダルシフトを推進 お客様に海外輸出のモーダルシフトを提案開始	○	Technology for Eco Lifeコミットメントの達成に向けての国内、海外向けのモーダルシフト推進 梱包方法改善の検討	P.19
事業所における環境への取り組み	省エネルギーの推進	エネルギー使用量の削減(省エネ法に基づき、CO ₂ 発生量ベースで売り上げ原単位比1%削減)	電力使用量は7.6%削減したが、CO ₂ 排出の総量では電力係数の悪化もあり、2.6%の増加となり、原単位も悪化した	×	同上コミットメントの達成までのロードマップと実施内容詳細の明確化と実施	P.20
		Technology for Eco Lifeコミットメントの達成に向けての基準づくりと活動推進	達成基準を明確化し、省エネルギー化設備導入の検討を進めた	○		
	廃棄物の削減	製造系事業所でのゼロエミッション継続	製造系事業所においてゼロエミッションを達成した。グループ全体のリサイクル率は、前年度と同等の高水準で推移	○	ゼロエミッションを継続する 廃棄物総量の削減を検討する	P.22
健康・安全	人身事故の削減	人身事故の件数を前年度より30%削減する	人身事故件数は前年度比約18%削減となり、目標を達成することができなかった	×	人身事故の件数目標は2008年度比約30%削減	P.24-25

* TELロードマップ:当社グループ製品に関する環境対応の方針・計画。【○目標達成 △目標の80%を達成 ×目標の80%未満の達成 一目標設定していない項目】